

11・7 日比谷へ!

全学連(織田陽介委員長) 書記局通信

2010年10月12日

No 2

Tel 050-3036-6464

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

国境をこえた団結で侵略戦争止めよう 菅政権打倒の1万人大デモを!

【1】10・10三里塚闘争が1560人の高揚!

10月10日、三里塚全国集会が1560人の大結集でかちとられた。北原鉦治事務局長は「成田空港が日本の将来を沈没させる元凶だ」と一喝し、第3誘導路で市東さんの家と農地を空港内に囲い込む攻撃を弾劾した。さらに法大処分・弾圧を批判し、「若者の未来のために闘おう!」と呼びかけた。動労千葉の田中康宏委員長は「三里塚はかけがえのない存在。労働運動への『4・9政治和解』という攻撃は、解雇された当事者に解雇を認めさせようとするものだ。国鉄全国運動を推進し日本の労働運動を塗り替えよう。動労千葉は定期大会でJR全面外注化と全力で闘うことを確認した。11・7労働者集会に結集し新たな出発点をつくろう!」と訴えた。

そして全学連は、法大を中心とした初参加者を先頭に集会を牽引した。この高揚を11月7日の1万人大結集へ!



織田陽介・全学連委員長の発言

まず最初に、三里塚闘争を青年労働者と学生を先頭に必ず勝利させることを決意しましょう。



あらためて、僕たちが闘ってきた怒りをハッキリさせなきゃいけない。国家権力が踏みにつてきたのは、農民の生活だけではない。戦後憲法(憲法9条)そのものを踏みにつて、この三里塚

をずたずたにしてきた。しかし今、農民が、生き方をかけて闘っている。この三里塚闘争をもう一度、私たちの怒りで絶対に勝利させよう。

みなさん! 今年の11月、日本の労働者・学生・農民は何をして過ごすのか? このことが世界から注目されています。菅政権が「弱腰だ」と叩かれてるけど、本当にそうですか? 菅がやっているのは、新安保懇で日本版海兵隊をつくり、失業者や学生を戦地に送り込もうとしているじゃないです

か。中国・釣魚台問題を使って、「沖縄に基地が必要だ」と煽っているじゃないですか! そして何より国鉄「4・9政治和解」で労働運動つぶしに躍起になっているじゃないか!

みなさん! 菅は自らへの批判をむしろ追い風に、戦争に突っ込もうとしている。そして、釣魚台問題をめぐって11月の日米首脳会談後に、彼らは「尖閣奪還作戦」と称して日米合同軍事演習を「中国軍の殲滅」を掲げてやろうとしている。日本が戦時下に入ろうとしている。この中でAPEC、日米首脳会談、そして沖縄新基地建設が強行されようとしているこの時に、私たち日本の学生・労働者・農民は、何をなすべきなのかが鮮明に問われています。

日本帝国主義支配階級の弱点は、戦時下に入ろうにも三里塚闘争を潰せ



ない、動労千葉を先頭とした階級的労働運動が潰せない、ということです。だからこそ私たちは、11月労働者集会への1万人結集、労働運動・学生運動の復権をかけた闘いをもって反撃を叩きつけよう！

学生は反戦闘争に立ち上がろう！みなさん、戦争を止める 때가やってきました。常日頃、「低賃金だ、残業だ、失業だ」、こうやって誇りを奪われきた労働者が、団結して立ち上がり「この社会の主人公は俺たちだ！」と声をあげ権力を握る、これが私たちの革命です。その中に戦争を止める力があります。青年・学生はこのままでいいのか？授業、単位、就活、競争に次ぐ競争、こんなものが俺たちの本当の生き方なのか！11月決戦に立ち上がる中で、学生・青年の持っている力と可能性を取り戻そう。今こそ、「菅政権打倒！」の1万人大集会に向かって、闘いに立ち上がろう！！

私たちは日本の労働者階級の先頭で、あらゆる党派が「4・9情勢」で屈服を開始する中で、全責任を取りきる立場で、最先頭で闘い抜きます！みなさん、ともに闘いましょう。

斎藤郁真・法大文化連盟委員長の発言

私は三里塚は初めてですが、私にはハッキリ分かっていることが一つだけあります。三里塚闘争の始まりは、頑張って農業をやったらある日急に国が「空港をつくる」と言い出して、しかもそれが軍事空港であると。「そんなもの持ってくるな！」と闘ったら、国家権力・機動隊がものすごい暴力を使って、勝手に空港をつくり出した。これに対して怒った。こういうことなわけです。これがどれほど人間的で正義であるか、これだけは私にはハッキリ分かります。

私は法政大学で闘っております。われわれのやっていることは何か？学生が自由にビラをまく、これは当たり前のことだ。だから、色んな意見を持ち未来の人間ができる。

【2】300人の法大生で右翼を包囲・撃退！ キャンパスから反戦と11月へのうねりを

大学と戦争をめぐる激突、戦争賛成と戦争反対の対決が大学キャンパスでついに開始されました。「反戦やりたいなら中国へ行け」「反戦は大学で言うことじゃない」「日本共産党だって日本の領土だと言っている」-10月11日、法大市ヶ谷キャンパスに2台の右翼街宣車が来たのです。

これに対し、300人の法大生が正門前に出てきて街宣車を取り囲むかたちになりました。「右翼相手に頑張ってるな」「もっと言い返したらいいのに」「右翼は戦争ありきなのかな？」「北朝鮮が攻めてきたらどうしたらいいのかな」、ビラ配りをしていた洞口さんと活発な議論がまきおこり、ビラもドンドン受け取られていきました。私も演説を行い、今週行う法大包囲デモや11月集会を訴えました。そして「これが戦争の現実であり、学生がキャンパスで反戦を訴え議論し行動することは当たり前なことなんだ」とアピールしました。

その対極にあったのは、許しがたい当局の態度です。日

しかし、法政大学は全部叩きつぶそうとしてくる、これに対してわれわれは怒った。

どちらの闘いも、当たり前のことを言って結局は資本・権力との闘いになっている。人間的に闘おうとすることが、今の時代は資本との闘いになる。敵のやることはいつも同じ。お金とモノをつかって、買収し切り崩す。法大でも同じだった。文化連盟に残ったら補助金は出さな

い、こうやって学生を分断しようとした。これに対して闘うという人間的なことが、われわれにとってそれは革命的と呼ばれる闘いになる。人間的に闘うことが革命的になる、われわれはそういう時代に生きています。同じ闘いで敵が同じである以上、われわれはともに闘わなくちゃいけない。

資本主義経済から言えば、農民の闘争は都市労働者の「食料値上げ」というかたちで労働者に反するものになる。でもそれが、労働者と農民と一緒に闘う中で団結することができる。本日の集会は、その可能性を示している。われわれは団結することができる！

革命ってものは別の世界でやることじゃなくて、いまこの瞬間、この日常を変えることです。今こうやって農民とともに闘うこと、これが世界を変えることです。昨日まで農業していた場所を奪われる、もしくは昨日まで普通にビラをまけていた場所でまけなくなる。昨日の通りに今日も暮らしたい、それを続けるためにはわれわれは前に進まなきゃいけない。ともに前に進みましょう！われわれの守りたいものを守るために前に進みましょう！



戦争を煽る右翼街宣車を取り囲む法大生(正門前)



正門前に結集してきた法大生と討論する洞口朋子さん

ラマキを「平穏な教育研究活動の妨害」を掲げて弾圧している当局の化けの皮が完全にはがれた瞬間でした。授業時間中の右翼演説には一切抗議しない一方、私たちの演説が1秒でも授業時間に入るとすぐさまガードマンが来て弾圧。あげくに正門を封鎖する始末。学生が右翼の前にさらされようとも、当局にとってはどうでもいいことなのです。

大学キャンパスが授業時間中に右翼に蹂躪されていることに対し、見てみぬ振りか傍観している教授たち。常日頃、平穏な教育研究活動を声高に叫んでいる教授もどんなに教

室内で「憲法」や「人権」を教授している教授も右翼の暴力を前にして何もすることができない。これが「研究なのか?」、暴力の前では無力になる「学問」って何なんだ!? 大学が戦争に加担していく姿を実感した瞬間でもあり、学生のラジカルさも改めて実感した瞬間でもありました。戦争を賛美する右翼を前に、行動したのは法大生のみだったからです。

心の中で反戦を祈っても、どんなに立派な理論をもっていても、今回のようにいざ戦争賛美の勢力を前にして自分自身がいかなる態度をとるのか、大学がいかなる態度をとるのか - - 戦争反対の声や戦争阻止の闘いはいつの時代も実力行動だと実感しました。私たちは、戦争を止めることを実現不可能な理想として掲げているわけではありません。労働者のストライキが戦争を止める、国際連帯の力で戦争を止める、それを実践している労働組合が日本にもあり、世界からも来る - - これが11月労働者集会です。

大学と学生のあり方と生き方が問われている時代です。戦争と大失業の時代とは敵の側が「中間」という選択肢を排除した時代であり、すべての人がいかなる態度をとるのか敵の側から突きつけられる時代でもあります。だからこそ私たちは、すべての学生に「この道を行こう」と「ここに展望がある」と11月集会を訴えます。魂と魂がぶつかり合う議論をもっと巻き起こそう! (法大: 倉岡雅美)

【3】10・21国際反戦デー闘争の爆発を!

東北大学 「10・21東北大学生行動」

* 12時10分から、昼集会(川内北キャンパス中央)

* 18時から、屋内集会(C403教室)

→ 斎藤郁真・法大文化連盟委員長の講演

京都大学 「10・21京大集会」

* 正午から、昼休み集会(京都大学本部キャンパス・クスノキ前) & 学内デモ

* 18時半から、屋内集会

→ 織田陽介・全学連委員長の記念講演

広島大学 「10・21広大反戦集会～釣魚台(尖閣諸島)問題は再びのアジア侵略改憲阻止 沖縄新基地建設阻止 菅政権打倒!」

* 正午から、キャンパス昼集会、公開質問状提出行動

* 16時半から、屋内集会(総合科学部 K207)

→ 倉岡雅美・全学連副委員長の講演

法大では、10月15日(金)に「処分撤回! 学祭規制粉碎! 再びのアジア侵略許すな!」の第4波法大包囲デモ

【4】全国大学からの闘いの報告

● 京都大

10月8日のキャンパス昼集会と、それに向かって毎日毎時間のクラス討論をやり抜きました。菅・民主党政権のペテン的な「防衛」戦争の本質を暴露するものとして、各クラスで怒りのアジテーションを行いました。

定例化した「大学奪還学生行動・実行委員会」は、開講後2回目にして早くも会議室が手狭になるほど闘う学生の決定的な結集軸となっています。熊野寮では、新聞記事を使って「新安保懇」の内容を具体的に暴露・弾劾し、イスラエル軍のガザ支援船襲撃に抗議してストライキに立つILWUローカル10の写真を掲載したビラ『熊野寮生に贈る 革命的新聞の読み方』が、お昼の寮食を食べにキャンパスから戻っ

てきた寮生の手次々と渡され、50枚以上撒けました。みんな読んでる!

そして金曜日のお昼休みに、10月21日の国際反戦デー闘争のプレ集会として、1967年10・8羽田闘争を最先頭で闘っ



た全学連闘士で京大生の山崎博昭君の精神を継承する「10・8京大反戦集会」を行いました。キャンパスと寮で一週間のクラス討論・組織戦を闘いぬいたからこそ路線的かつ大衆的なアジテーションが、食堂へ向かう多くの学生の歩調を緩めさせた。みんな聴いてる！ピラの受け取りも圧倒的！そして集会後、新安保懇に法学研究科教授(中西寛)を送り込み、米軍から資金提供を受けて平然としている大学当局の立場を追及すべく、申し入れ書の提出を行いました。

この間の闘いの中で5名の新たな仲間が11月集会への参加を決意しました。闘えば闘うほど仲間が増えるって、ホント素敵ですね！（A）

●東北大

10月開講以降、「学生は今こそ反戦闘争に立ち上がろう」「11月労働者集会に行こう」と訴えています。菅政権が「日本固有の領土」とデマゴギーを振りまきながら、侵略戦争に突き進むことに対し、真正面から「菅政権の侵略戦争を許すな！」と訴えてきました。初めはなかなかアジテーションが学生とかみ合わなかった中で、模造紙資料をつくって丁寧に訴えたら、資料に対する学生の注目度は抜群。「北海道はどうなんだ？独立させればいいのか？」「領土問題は、立場性の問題ですよ」など活発な討論が始まっています。

菅政権と学生は絶対に非和解であり、全世界の学生・労働者の団結した力にこそ戦争を止めることができると確信をもって訴えれば、「日本固有の領土」などの陳腐な排外主義扇動はうち破れます！議論の中で、11月集会のチケット販売、賛同署名がどんどん集まっています。「非正規反対。運動を通して学ばせていただき、世の中を動かしていきたいと思います」「日本労働運動の復権をかけて、国鉄闘争に勝利しよう！」「教育の民営化反対！労働者・学生のモノ扱いを許さない！」「戦争断固反対！菅政権打倒！！だれかがやるんじゃねえ！！おれがやるんだ！！」などのメッセージが。学生の怒りをもっと引き出し、11月集会への大結集へ！（B）

●広島大

連日の昼展開では、スペイン広場に100人近い学生が、私たちの訴えをきくためにわざわざ座って昼食をとっています。先日は、中国の留学生が私たちの訴えに感動してくれ、10・21キャンパス集会には友達中国人留学生にも声をかけて参加してくれることを約束してくれました。もっと討論を巻き起こして、11・7の参加者を増やします！

3日(月)から一週間、計17回クラス討論をやりました。事前にクラス討論の資料をつくり、全員でやって総括し、



訴える中身を改良しながら進んできました。「釣魚台問題は菅政権による再びのアジア侵略だ」「大学・学生の戦争動員を許すな」「学生こそ戦争

を阻止する主体だ」というこちらの訴えに、学生は真剣に、静かに食い入るように聞いてくれます。学生が最も反応がいいのは、「かつて、デマや排外主義で侵略戦争に出ていった歴史を繰り返していいのか」「菅が自衛隊を侵略のための軍隊に180度転換しようとしていることと闘おう」というところです。やはり、学生は戦争反対だと圧倒的に確信出来ます。また、「学生の就職率60%という中で、雇用のためにと学生が軍隊に、戦争にとられようとしている」というところ。だからこそ、学生が戦争を拒否しようということです。

少しずつ学生から質問も出るようになりました。11月集会に行くことが決まった仲間も、クラス討論に来てくれるようになりました。この勢いで今週もガンガンクラス討論で勝負していきます！大恐慌が世界戦争に向かっていくことをもっと鮮明にさせ、11月集会1万人の反戦デモで菅政権を倒そうという点を鮮明にうち出して勝負していきたいと思います。（C）

●首都圏・私立S大学

開講日(10月1日)と6日の展開で学生との結合がガンガン始まり、処分撤回署名も21筆集まっています。6日には、文化連盟委員長の斎藤君が正門前に登場。「菅政権による『尖閣諸島』略奪のための侵略戦争絶対阻止！」のピラと斎藤君のアジで、門前の道いっぱいに広がる討論の輪が！

署名に応じてくれたある学生は、大学が単に知識を切り売りする場になっていることへの怒りと大学への失望を率直に語ってくれました。そして11月集会に関しては「スケールの大きい闘いですね」と共感を示し、次の日には再び会って話すことができました。

感動的なことは、署名展開の中でS大生がマイク握ったことです！「処分について自分の思いを語りたい」とのアピールがキャンパスに響き渡りました。署名をする学生は法大の処分への怒りのみならず、大学と社会に対して心の底から怒っています。「1万人の力で菅政権は倒せる！世界は変えられる！」、このことを真っ向から訴えよう！！（D）

●首都圏・私立Y大学

先週の展開で、「戦争反対の怒りで学生と結合できる」「11・7に組織できる！」という確信を得ました。展開では「Y大から戦争反対の行動を！」という見出しのピラをまき、初めてアジを立てました。ピラは一日で120枚まき、署名は10筆集まりました。そして、2つの決定的な結合がありました。

一人はアジを聞いてすぐに「(11・7に)行きます」と賛同署名と処分撤回署名に応じてくれました。メッセージには「国民は戦争を望んではいけません」と書き、チケットも2枚持っていました。もう一人は、署名をした後も話になり、そのまま首都圏の活動者会議に参加した学生です。彼は「学生が話し合っているのに興味があって参加した」と自己紹介し、「反戦といわれてもピンとこない学生が多い。何で今反戦なのかを書いたらどうか」と論議に加わりました。（E）

<以上>